

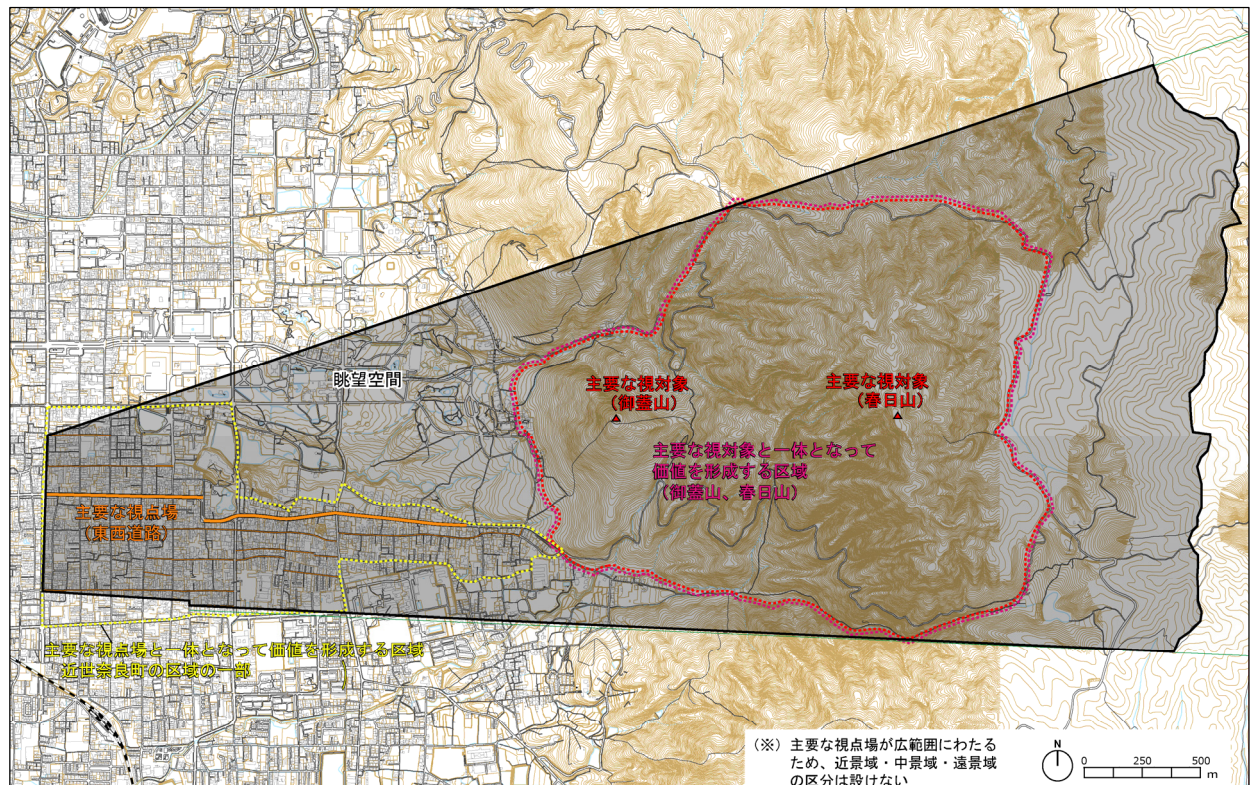
No.10 奈良町から春日山等の山並みへの眺望

(1) 眺望景観の概要

① 眺望景観の構成

類型		Ⅲ. 見通し型眺望景観	
視点場	主要な視点場	近世奈良町の一部区域(地形地物・自治会区域に基づく一体的な区域)における東西道路	
	主要な視点場と一体となって価値を形成する区域	近世奈良町の一部区域(地形地物・自治会区域に基づく一体的な区域)	
視対象	主要な視対象	御蓋山、春日山	
	主要な視対象と一体となって価値を形成する区域	御蓋山、春日山	
眺望空間	近景域／中景域／遠景域	市街地(奈良町の町並み)、春日大社境内、御蓋山、春日山	
	主要な視点場である奈良町の東西道路と主要な視対象である御蓋山・春日山の南北山裾とを結ぶ直線に囲まれた区域であり、かつ、東部山並みの稜線までの区域とする。		

■ 眺望景観の構成図



②奈良らしさ

i) 目に見える景観の特性

奈良町の歴史的な町並みが山並みへの軸線をつくりだしている場合は、山並みがアイストップとなる。その他多くの区域では、町家の間や空地などから垣間見える。

ii) 心で感じる景観の特性

○歴史的背景

奈良町は、平安時代以降、東大寺、興福寺等の周囲に形成された門前郷を原形として発展してきた町である。

春日山は、続日本後紀によると、承和 8 年（841）に仁明天皇により、春日神社山内の狩猟伐木をかたく禁ずる旨が出されている。

○民俗文化・生活文化／文学・芸術作品／説話・伝承

奈良町は、中世以降、墨・筆・蚊帳・晒などの様々な産業が発展し、近世には有力な商工業都市として成熟した。現在もそれらの産業が残されている。墨の香りや寺院からの線香の香りから、生活文化を感じられる。また、奈良町には「博奕をうった神様」や「阿字万字の天狗」などの数多くの説話や伝承が残されている。

春日山の最初の山の主は耳が聞こえにくく、常陸の鹿島から春日明神が移ってきたとき、細かく聞きもせず三尺を貸すことを承諾してしまったため、山全体の三尺を貸すことになり、今も春日山の木々はみな地下三尺より深くは根を下していないという伝説がある。また、春日山等の山々は、万葉集にも多く詠まれている。

「秋されば 春日の山の 黄葉見る 奈良の都の 荒るらく惜しも」

（万葉集 10-1604、大原真人今城）

「春日山 朝立つ雲の 居ぬ日なく 見まくの欲しき 君にもあるかも」

（万葉集 4-584、坂上大嬢、大伴家持）

○眺望景観の構成要素の関係

春日山原始林は、興福寺の記録によると、風害などのあった後の補植などの記事をみると、厳密な意味での原始林ではなく、むしろ古代からの原始林的植生を保つために手入れをしてきた山林となっており、周辺の社寺や住民と深く関わりながら存続してきた。

iii) 情報としての景観の特性

○名所案内記・絵図等

春日山は、「大和名所図会巻ノ一」（寛政 3 年（1791））、「奈良名所東山一覽之図」（幕末頃）、「大和国奈良細見図」（明治 7 年（1874））など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。

○インベントリー

奈良町地区は、「都市景観 100 選」（平成 8 年度）、ならの墨づくりは「かおり風景 100 選」（平成 13 年）に選定されている。

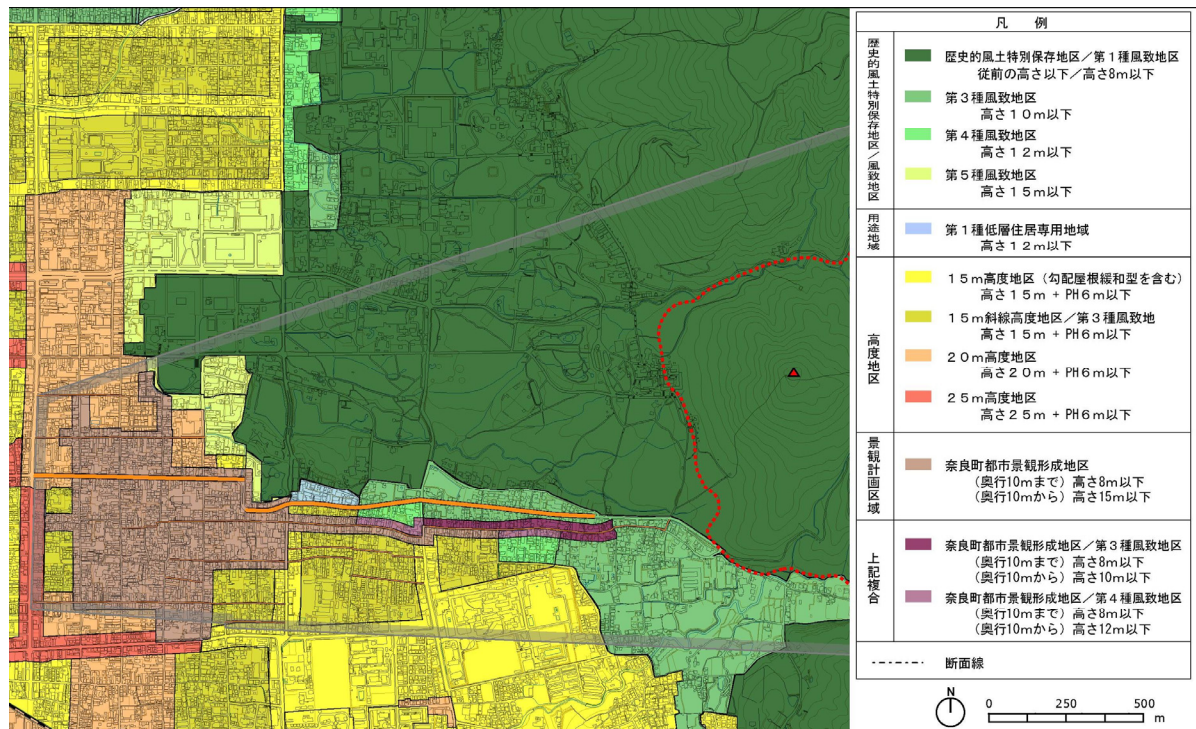
春日山原始林は、世界遺産として多くの人々に知られている。

(2) 眺望景観の保全・活用の現状と課題

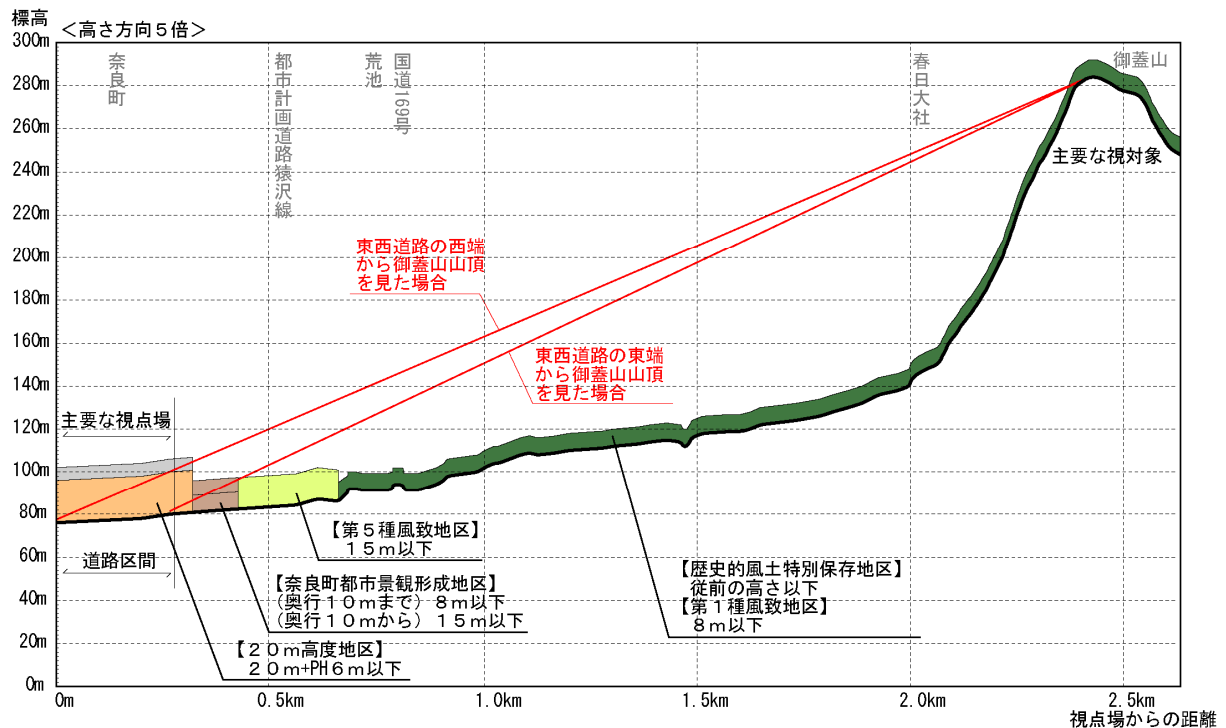
① 守るための視点

春日山及び御蓋山を含む山林は、第一種風致地区、歴史的風土特別保存地区、特別天然記念物等により保護されている。奈良町は、奈良町都市景観形成地区及び奈良町歴史的景観形成重点地区として、視点場及び近景の町並みの保全・形成が図られている。しかし周囲に不調和な建築物等もみられ、基準の再検討や運用の改善等が求められる。

■ 現行法による高さ規制の状況



■ 現行法による高さ規制の状況（断面図）



②整えるための視点

視界に電柱電線類が映り込む。電柱電線類が眺望景観を阻害しないよう電柱電線類の美化等が求められる。

一部奈良町の町並みに不調和な建築物等が、眺望景観の質を低下させているため、修景が求められる。



■ 眺望景観を阻害する電柱電線類や屋外広告物

③活かすための視点

公募により推薦された眺望景観である。奈良町から春日山が見えることは多くの人が知っているが、眺望景観としての認識は薄いと考えられるため、奈良町や御蓋山や春日山の関係性や奈良町から山並みへの眺望の価値などを積極的に情報発信していくことが求められる。また、まちなかからの眺望であり、ゆっくりと眺望を享受できる場の整備が求められる。

(3) 眺望景観の保全・活用の目標と方針

①眺望景観の保全・活用の目標

前述の「奈良らしさ」の整理より、奈良町から春日山等の山並みへの眺望の主題（コンセプト）は、「奈良町の歴史的な町並みの先に春日山等の山並みを望むことで、奈良における東部の山並みの重要性を感じられる眺望であること」といえる。

そこで、眺望景観の保全・活用の目標は、以下のとおりとする。

【眺望景観の保全・活用の目標】

～ 奈良町の町並みと御蓋山・春日山等が一体となった

歴史的風土を感じられる眺望景観づくり ～

②眺望景観の保全・活用の方針

眺望景観が抱える課題を解決するため、眺望景観の保全・活用の目標を具体化した「眺望景観の保全・活用の方針」を以下のように設定する。

【眺望景観の保全の方針】

守るための方針

- ・建築物等の高さの制限や屋上施設の景観誘導などにより、御蓋山及び春日山をはじめとした山並みがつくりだす稜線を保全する。
- ・沿道の建築物等の形態意匠の景観誘導や歴史的建造物の保全などにより、御蓋山及び春日山をはじめとした山並みをアイストップとして象徴的に眺められる歴史的な軸線を保全する。
- ・視対象となる御蓋山、春日山の山林の適切な管理により、豊かな自然景観を保全する。

整えるための方針

- ・歴史的な町並み景観に不調和な要素の修景を進めるとともに、町並みを形成する身近な景観要素のデザインやしつらえに配慮し、春日山をはじめとした山並みへの歴史性及び一体性の高い軸線を形成する。

活かすための方針

- ・奈良町及び周辺地域に数多く分布する歴史文化遺産やその他の奈良らしい眺望景観等と連携した観光資源としての積極的な活用を推進する。
- ・奈良町の歴史や文化及び御蓋山や春日山の自然環境、また、それらの相互の関係などを通じて眺望景観の価値を多くの人々が理解し、見る人それぞれの感性により、多様な感じ方ができるよう、情報発信や空間づくりを推進する。
- ・奈良町の歴史的な町並みの保全・形成ならびに歴史や文化、人々の営みを感じられる場としての整備により、歴史的な視点場としての趣を創り出し、奈良町全体としての魅力の向上を図る。
- ・四季折々の美しさを感じられる山林・樹林の適切な管理により、視対象としての魅力の向上を図る。

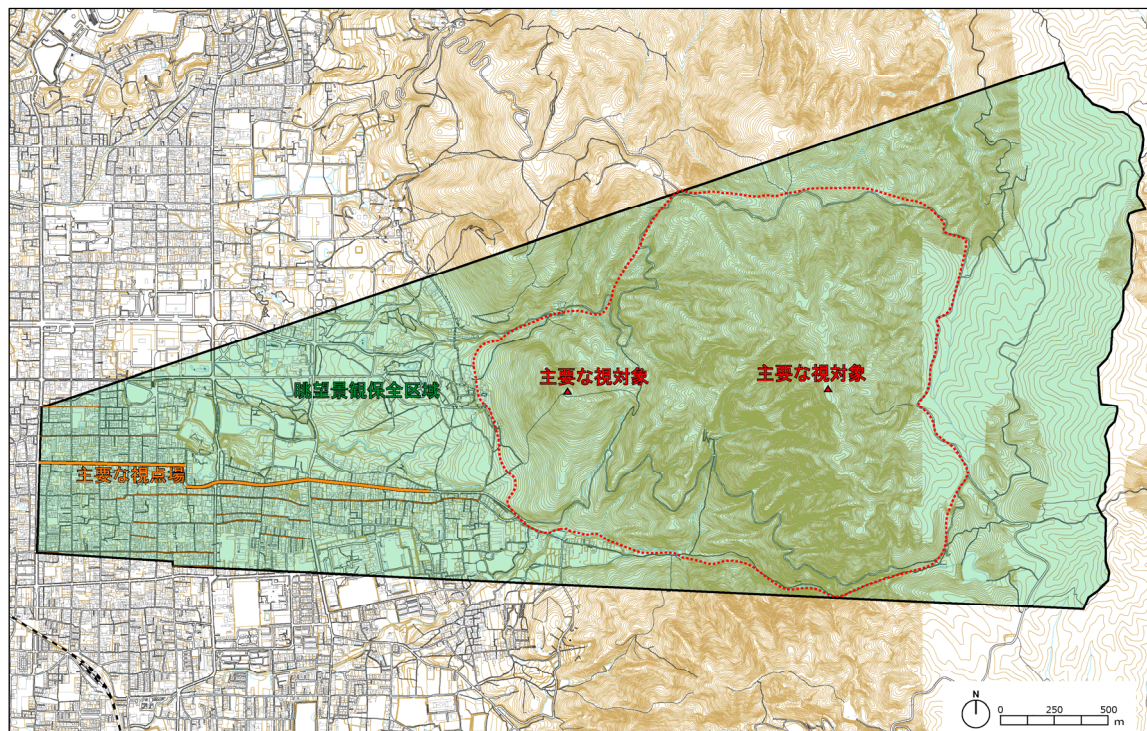
(4) 眺望景観の保全・活用の方策

① 守るための方策

○ 対象区域

(1) ①で設定した眺望空間全体を「眺望景観保全区域」とし、守るための方策の対象区域とする。

■ 眺望景観保全区域



○ 施策の方向性

建築行為や開発行為等に対する規制・誘導の手法に基づき、眺望景観保全区域を3つのゾーンに区分し、それぞれの以下の方向性に基づき施策を展開していくこととする。

<ゾーンA：眺望景観の視点からの新たな規制・誘導策を講じる区域>

東部の山並みへの歴史的な軸線を形成するための沿道の建築物等の形態意匠等の誘導や屋外広告物の規制の強化、東部の山並みの稜線を保全するための屋上工作物等の形態意匠の制限を実施していくため、奈良町歴史的景観形成重点地区の追加指定を検討する。

奈良町内に数多く残る町家等の歴史的建造物や景観上重要な建造物の文化財の指定・登録や景観重要建造物の指定、また、歴史的風致維持向上計画の策定による歴史的風致形成建造物の指定を検討する。

<ゾーンB：現行の法制度に基づく規制・誘導を基本とし、必要に応じて配慮を求める区域>

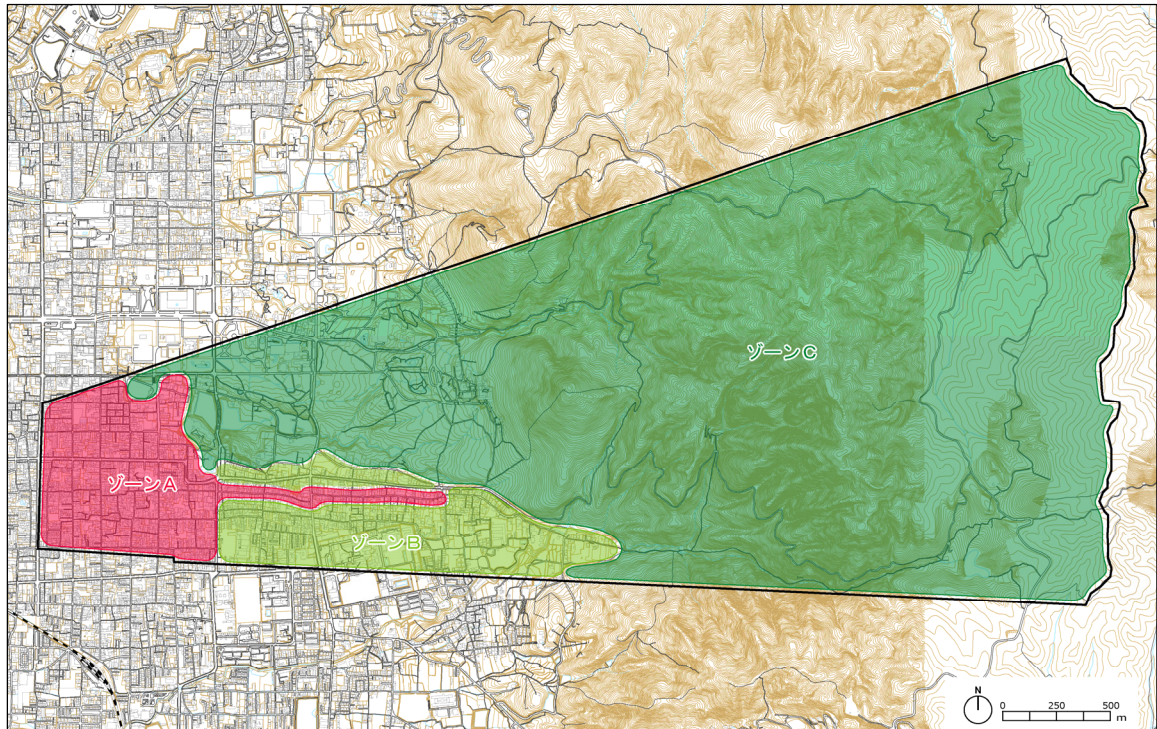
現行の高度地区や風致地区に基づき、建築物等の高さや形態意匠を規制・誘導を継続するとともに、東部の山並みへの眺望を遮るおそれのある規模、高さの建築物等や良好な軸線と不調和な形態意匠の建築物等の建築が計画された場合には、眺望景観への配慮を要請する。

<ゾーンC：現行の法制度に基づき規制・誘導を図る区域>

現行の歴史的風土特別保存地区や風致地区、史跡や名勝、天然記念物等の文化財の指定に基づき、歴史的建造物の保存や樹林や山林等の適切な保存管理等を推進する。また、歴史的風土特別保存地区内については、買取り制度の活用による買取りと適切な維持管理を推進する。

山林については、ナラ枯れ対策や台風等による被害木への対処ならびに森林の多様な機能を高度に発揮させるための景観施業を推進する。

■ 守るための施策の方向性に係る区域区分



②整えるための方策

○対象区域

「眺望景観保全区域」を対象とする。

○施策の方向性

景観阻害要素の除去や修景のための助成制度の創設を検討し、所有者等との調整のもとに既に景観を阻害している要素の修景を進める。

景観を阻害している道路施設の修景を推進する。特に、主要な視点場となる奈良町内の東西道路の区域については、順次電柱電線類の美装化を検討する。

③活かすための方策

○対象区域

(1) ①で設定した「主要な視点場と一体となって価値を形成する区域」を「視点場魅力向上エリア」、「主要な視対象と一体となって価値を形成する区域」を「視対象魅力向上エリア」に設定し、活かすための方策の対象区域とする。

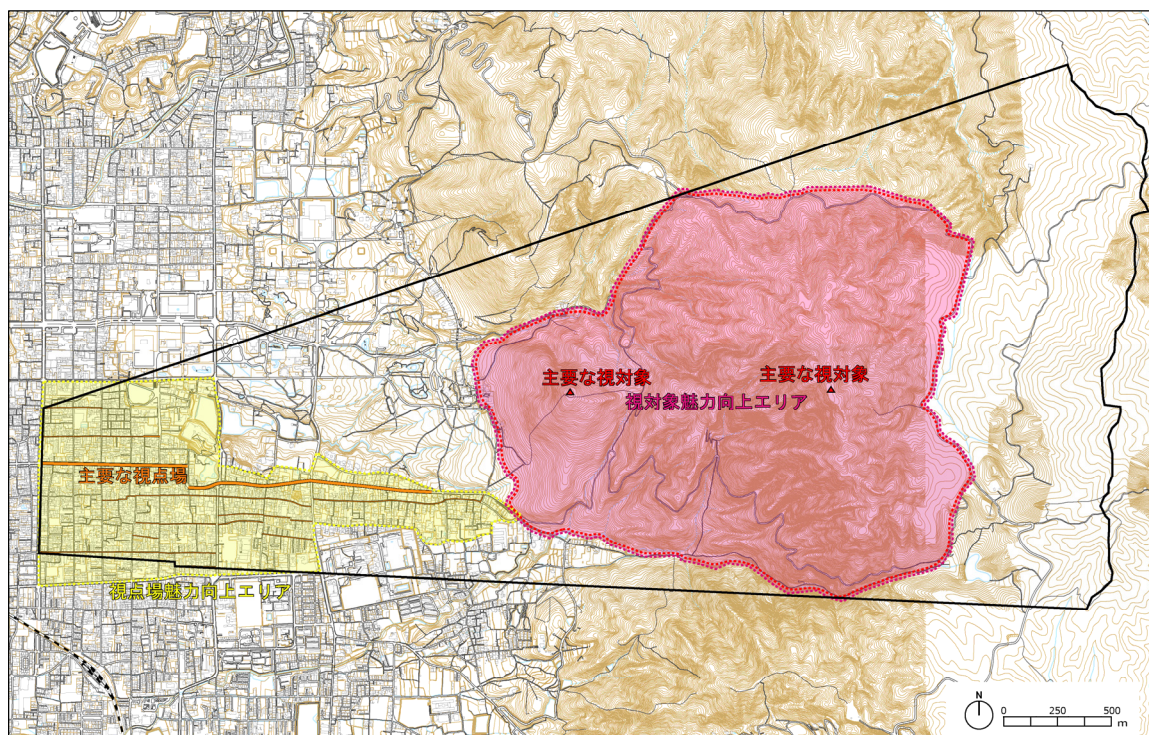
○施策の方向性

<視点場魅力向上エリア>

奈良町内の各地区や周辺地域の歴史文化遺産と連携した観光ルートの創設や観光マップの作成などにより、眺望景観を観光資源として積極的に活用していく。また、より多くの人々が、眺望景観から奈良町の歴史や御蓋山及び春日山との関係などを感じられるよう、奈良市ホームページや情報誌等を通じて眺望景観に関する情報を積極的に発信する。

視点場となる奈良町の魅力の維持・向上のため、奈良町都市景観形成地区の一体的な歴史的

■ 視点場魅力向上エリア及び視対象魅力向上エリア



景観の形成を進めるとともに、駐車場や空地などとなり奈良町の歴史的な町並みを阻害している場所の公有化ならびにゆっくりと山並みへの眺望を味わえる視点場としての整備を地域住民や所有者等との調整のもとに検討していく。また、墨や寺の線香の香、興福寺南円堂の鐘の音など、五感を通じて奈良町の歴史と人々の生活の営みを感じられる視点場としての魅力を維持・向上していくため、伝統産業や伝統工芸などの振興、伝統的な祭礼・行事、地域の説話や伝承等の継承などに努めるとともに、歴史的風致維持向上計画の策定や関連部局との連携による各種制度の活用を検討する。さらに、奈良町の地区別の特徴（歴史的な建造物が多く残る地区、伝統産業を感じられる地区、人々の生活文化に触れられる地区、美しい眺望景観を望める地区など）に応じた魅力の向上や眺望景観を観光資源として活用していくため、地域住民等との協働による調査や構想・計画づくりなどを行う。

<視対象魅力向上エリア>

視対象となる御蓋山及び春日山は、市民が東部の山並みを身近に感じられるよう、地域住民との協働による山林・樹林の管理や、地域の自然環境や歴史を学ぶ場としての活用を検討する。